

令和4年度 災害対応マネジメントセンター活動報告

報告期間：令和4年4月～令和5年3月

1. 国や宮城県等の行政組織、自衛隊等の外部組織による訓練・研修会への参画

1) 訓練・研修会

(1) 「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練

→コロナ禍の為、規模縮小、行政職員のみで実施

(2) 令和4年度 大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）

※実働運営：4名

開催日時：

前日訓練：9月30日(金) 11:00 地震発生（EMIS一斉通報により発災を通報）。発災後、DMAT事務局及び被災地各県庁により前日訓練を実施。プレイヤーは、出動DMAT登録、DMAT活動状況入力等を開始。

当日実働訓練：10月1日(土) 7時頃～19時

実働訓練は、10月1日(土)にチーム毎に指定された時間・場所から開始。

訓練目的：南海トラフ地震を想定し、「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」（平成27年3月30日中央防災会議幹事会決定、令和3年5月21日最終改正）に基づき、国、地方公共団体等が連携して、大規模地震時医療活動に関する総合的な実働訓練を実施し、当該活動に係る組織体制の機能と実効性に関する検証を行うとともに、防災関係機関相互の協力の円滑化を図る。

訓練想定：

- 南海トラフ地震を想定
- 発災日時 9月30日(金) 11:00 地震発生
- 被災地想定：静岡県、愛知県、三重県、和歌山県
- 北海道、富山県、鳥取県に被災地外SCUを設置
- 【通信状況】被災地内（静岡県、愛知県、三重県、和歌山県の全地域）では携帯電話、固定電話ともに音声通話不可。

参加機関：

内閣官房、内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省（DMAT事務局含む）、国土交通省、海上保安庁、防衛省、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、日本赤十字社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社、静岡県、愛知県、三重県、和歌山県、北海道、富山県、鳥取県、日本航空株式会社、全日本空輸株式会社等

主な訓練項目及び実施主体：

・地域医療活動訓練（本部運営、地域医療搬送、参集拠点設置、SCU運営等）（都道府県（支援：DMAT事務局））

・DMATの参集、活動訓練（DMAT事務局、都道府県）

・広域医療搬送訓練（内閣府、厚生労働省・DMAT事務局、防衛省、都道府県）

訓練参加DMAT（医療機関）：

・被災地（静岡県、愛知県、三重県、和歌山県）：

約100病院（災害拠点病院、DMAT指定医療機関等）

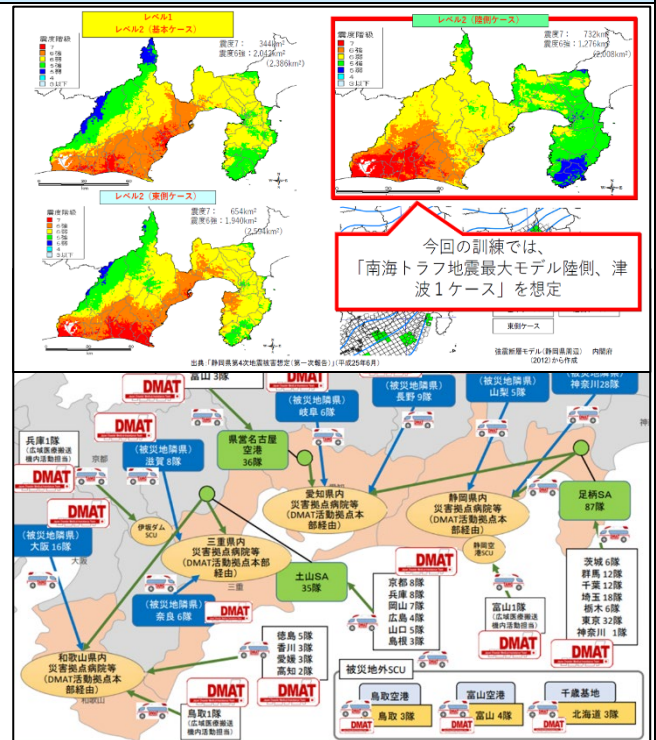
・訓練プレイヤー（DMATチーム参加）：

308病院計321チーム（計約1,500名）

（被災地外からの支援DMATのみ。被災4県を除く43都道府県からの参加）

・訓練コントローラー/指定プレイヤー：

約400名（被災4県を含む全国のDMATインストラクター、タスク等）



・当院プレイヤー・指定プレイヤー配置場所

活動場所	所在地	当院参加状況	参加職種等
公立西知多総合病院	愛知県東海市	DMAT1 チーム	医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 3 名
富士山静岡空港 SCU	静岡県牧之原市	インストラクター 1 名	看護師 1 名

【当院プレイヤー】

活動内容： 参集拠点である県営名古屋空港から、知多半島医療圏活動拠点本部(藤田医科大学病院)に移動、公立西知多総合病院支援の指示あり、支援 DMAT として赤エリアの支援に入るが、搬送調整を実施。

結果と課題： 概ね支援先の医療機関の要望には対応できたが、支援先より、支援 DMAT の扱いについての認識が明確でなかったことが判明し、積極的に提案、介入が必要であった。衛星携帯電話のかけ方や本部活動、EMIS からの情報収集、クロノロの記載などに平時より精通しておく必要がある。

【当院指定プレイヤー】

活動内容： DMAT ロジスティックチームとして、SCU の指揮本部の活動を支援し、SCU に搬入された傷病者を円滑かつ迅速に被災地外に搬出できるよう支援する

結果と課題： 新しいレイアウトでの指揮所運営、指揮所の立上げ、役割分担、ブリーフィング、EMIS の SCU 指揮本部の組織図作成、参集 DMAT の登録、衛星通信確立、EMIS での情報収集、診療部門の患者リスト共有などを実施できた。しかし、コミュニケーション不足による初動の指揮所の立上げの遅延や搬送フローにない個別の医療機関からの搬送、周辺地域からの直接搬送が多く発生し、SCU から搬出する搬送リソースの確保が難しく、搬送先の調整システムが難解で搬送先も潤沢にないなど、SCU に傷病者がたまる一方となった。南海トラフで最も被害想定の高い地域における医療搬送の問題点が明らかとなった。

成果： 訓練の現場では、事前に訓練想定や訓練計画の情報はあったものの、静岡空港の SCU 分類を現場の指定プレイヤーが正確に理解して臨めていなかった。また、訓練中は日本全国も含めた視野、南海トラフで被害を受けた 4 県、静岡県全体の状況、中部方面本部、周辺地域、といった広い視野で物事を考えることができず、目前の傷病者の増加とリソースの確保に始終した。被害状況が深刻な地域が広大となる被災地内における災害医療体制の課題を、今回の調整作業を通して理解することができた。また、被災地内 SCU に求められる資機材や人的、物的リソースが理解できた。静岡県は県本部を中心に西部方面本部、中部方面本部、当部方面本部、賀茂方面本部という 4 方面本部体制があり、平時にこの体制を理解し、訓練に臨めたことは、実災害における今後の活動の糧となると感じた。

(3) 宮城県 9. 1 総合防災訓練

⇒地域限定の訓練となったため参加せず

(4) 東北ブロック DMAT 参集訓練

⇒コロナの感染拡大、大雨被害のため中止

(5) 宮城県国民保護共同机上訓練

⇒今年は実施せず

(6) 仙台空港航空機事故対処図上訓練

⇒コロナ禍のため、規模縮小し、医療機関の参加なし

(7) 令和 4 年度 大型旅客船事故対応訓練船上訓練 ※企画担当：1 名

訓練開催日時：2022/11/18 (金) 13:00~15:00

訓練会場：太平洋フェリー株式会社所有フェリー「きたかみ」(以下、「きたかみ」)

実施主体：海上保安庁

関係機関調整会議開催日：2022/11/4、11/8

当院出動 DMAT MTG 及び準備：2022/11/17

訓練目的：大型旅客船において海難が発生した場合、多数の乗客救助及び負傷者の救助搬出を実施する事態が想定される。各機関との連携の確認及び強化を図り、海難発生時における迅速かつ的確な救助能力の向上に資するため。



訓練参加予定機関：

(1) 参加機関（17機関）

太平洋フェリー株式会社、東北福祉大学、航空自衛隊松島救難隊、横浜税関仙台塩釜支署、宮城県、宮城県警察本部、仙台市消防局、塩釜地区消防事務組合消防本部、塩釜消防署、国立病院機構仙台医療センター、東北大学病院、東北医科薬科大学病院、仙台市立病院、みやぎ県南中核病院、第二管区海上保安本部、宮城海上保安部、仙台航空基地

(2) 船艇・航空機

① 船艇（4隻）

- ・横浜税関仙台塩釜支署：監視艇しおかぜ
- ・塩釜消防署：消防艇さくら
- ・宮城海上保安部：巡視艇うみぎり 巡視艇しらはぎ

② 航空機（固定翼機1機、回転翼機3機）

- ・仙台航空基地：固定翼機1機、回転翼機1機
- ・航空自衛隊松島救難隊：回転翼機1機
- ・仙台消防局航空隊：回転翼機1機

(3) 当院参加者

- ・DMAT1 チーム：医師1名、看護師1名、業務調整員1名
- ・コントローラー：看護師1名

訓練想定：仙台港向け宮城県金華山沖を航行中の「きたかみ」機関室内で火災が発生して操船不能となり、沖防波堤に衝突・乗揚げたことから、多数の負傷者が発生、118番で救助要請。

調整過程：11/4、11/8とWEB会議にて打合せを実施。大型客船内における救出プラン、時系列の確認。傷病者の救出、上陸した後の救護所活動について、事前調整を行った。

訓練状況：救助者が搬送予定の岩壁にて現場指揮所を設置し、海上保安庁、仙台市消防局、DMATで協同して指揮所運営を実施した。「きたかみ」にて発生した最重症患者を航空機にてつり上げ救出し、その他の中症および軽症者を巡視艇等で救出、所定の岩壁まで搬送された。傷病者上陸後、岩壁に設置された救護所にて二次トリアージ、診療を行い、搬送先医療機関を消防と協同して選定し、搬出した。

成果：今回は船内の活動はなく、救出されてきた傷病者を岩壁に設置された救護所で受け入れる訓練を行った。海上での安全を確保しながらの救出作業や移動には時間がかかることが分かった。岩壁に設置された現場指揮所での海上保安庁、消防、医療の情報共有が重要であった。また、待機時間が長かったため、救護所担当の医療チームの事前調整、役割分担が重要であった。本部構成員の充実や現場と本部の通信手段の確保が課題として挙げられた。海上災害での関係機関の連携について学ぶことができた貴重な機会となった。



2) 宮城県からの委託事業

(1) 宮城県災害医療技能研修

※企画担当：4名

開催日時：2023/2/2-3

開催会場：集合研修

実施機関：東北大学病院（宮城県委託事業）、災害GP共催

※災害GP:コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム

参加機関：県内災害拠点病院（石巻赤十字病院、大崎市民病院、仙台市立病院、坂総合病院、東北医科薬科大学病院、みやぎ県南中核病院、東北大学病院）、宮城県



参加人数：受講生 36 名（うち災害 GP 受講生 3 名）、講師 14 名、タスク 22 名、事務 5 名

内容：日本 DMAT 隊員養成研修会の局地災害に当たる 1.5 日分の研修を厚労省が定める要項に沿って、実施した。今年度はコロナ禍のため、救護所の実動訓練は実施しなかった。

成果：局地災害に特化した内容をプログラムに沿って実施、修了できた。当初、コロナ禍のため受講生枠を制限していたが、コロナ禍の需要の高まりもあり、受講枠を拡大して実施した。感染予防対策を徹底し、3 年ぶりの研修会を実施、県内の災害対応可能な医療従事者の育成に寄与することができた。



(2) 宮城県医療救護活動従事者研修会 企画担当：4 名

催日時：2023/1/22

開催会場：東北大学災害科学国際研究所

実施機関：東北大学病院（宮城県委託事業）、災害 GP 共催

参加機関：県内各医療圏における保健支部、行政、医療機関

参加人数：受講生 21 名（うち災害 GP 受講生 12 名）、講師・タスク 23 名

内容：コロナ禍における避難所運営や避難所のアセスメント方法、24DH（災害時保健医療福祉活動支援システム）の避難所アセスメントツールとして起用された東北大学病院が開発中の RASSEC-GM の使用方法について、アプリによるデータ入力と、集約されたデータを本部として分析、対応を検討する実践的な対応方法について学んだ。

成果：コロナ禍における災害発生後の避難所運営やアセスメント、より簡便となったアプリの操作性や、本部側からの分析を経験いただき、広く行政対応や救護班活動、避難所アセスメントとその後の対応について理解を深めていただくことができた。



3) 会議

(1) 令和 4 年度宮城 DMAT 連絡協議会実務調整 WG

⇒コロナ禍のため、開催されず

(2) 令和 4 年度 災害医療コーディネーター・災害拠点病院連絡会議・宮城 DMAT 連絡協議会合同会議 会議出席：3 名

開催日時：2023/2/8 18:00~19:30

開催場所：WEB 会議

実施主体：宮城県保健福祉部医療政策課

参加機関：宮城県保健福祉部医療政策課、県内災害医療コーディネーター、県内全災害拠点病院・DMAT 関係者

参加人数：災害医療コーディネーター 25 名 + 災害拠点病院関係者 29 名 + 医師会 4 名 + 行政職員 32 名
合計 90 名

協議内容：宮城県における地域災害医療支部・仙台市の活動状況、災害医療コーディネーターの委嘱状況、設置・運営要綱に修正、宮城県大規模災害時医療救護活動マニュアルの改訂、宮城県災害派遣医療チーム（宮城 DMAT）運営要綱の改訂、宮城県災害医療ロジスティクススタッフ設置・運営要綱、仙台空港航空搬送拠点臨時医療施設等設置運営に関する協定書、仙台空港 SCU 設置マニュアル、災害拠点病院の訓練実施状況、令和 4 年度 DMAT 関連事業の実施状況と今後の取り組みについて協議した。

成果：宮城県における災害医療体制の構築と今後の方向性について情報共有及び意見交換がなされた。

(3) 東北ブロック DMAT 連絡協議会

⇒コロナ禍の為、開催中止

(4) 国民保護共同図上訓練会議

⇒今年度の実施なし

⇒コロナ禍のため、開催中止

2. 院内活動

1) 院内訓練・研修会

(1) 令和4年度 東北大学病院総合防災訓練（本部・外来支部・多数傷病者対応訓練）

企画運営担当：3名、評価：1名

開催日時：2022/11/11 13:00～16:30

訓練会場：①災害対策本部訓練：東4階第5会議室

②外来支部訓練：キャンサーボード室

実施主体：災害対策委員会

参加者：病院長、副病院長、看護部長、高度救命救急センター長、総合地域医療教育支援部長、感染管理室長、事務次長、事務部各課・室長・職員（総務課、経営管理課、経理課、医事課、施設企画室、地域医療連携課、広報室）、各診療科、看護部、中央診療部門、中央監視室、警備員、災害科学国際研究所、災害対応マネジメントセンター等

参加人数：本部訓練：49名

外来支部訓練：25名

訓練までの準備：

11/1 本部訓練勉強会

11/1 外来支部勉強会

10/27 多数傷病者対応机上シミュレーション事前打合せ

11/7 多数傷病者対応高度救命救急センター事前勉強会

11/8 多数傷病者対応医事課事前勉強会

訓練後の対応：

11/11 総合防災訓練当日振り返り：（WEB形式）

12/15、2023/1/19 総合防災訓練WG（各部門振り返り）

主な結果と課題：

【災害対策本部】

- ・コロナ禍における病院としての抗原検査を使用した運用、黄色待機エリアの運用の指示、第1回災害対策本部としての意思決定と院内周知ができた。

- ・事務部門内で事前に調整した対応は実施できたが、予定調和であったとの指摘あり。チームビルディングの実施や、実災害時に対応可能な体制の構築が必要。

- ・事務部門と医療調整担当者間の綿密な連携・調整が必要。

- ・クロノロの記載方法等の実践的な本部機能への精通が課題。

【外来支部】

- ・チームビルディングの不足により役割分担が不十分となった。また、クロノロや電話受け、担当者の背景を考慮した役割とのマッチング、人員の不足、外来で発生しうる課題への対応について支部内での混乱等がみられ、外来支部の本部機能の強化が課題となった。

【多数傷病者対応机上シミュレーション】

- ・コロナ禍の感染拡大によるスタッフ確保困難のため、開催日程を変更して後日開催となる。

成果：コロナ禍における災害時の対応として調整してきた院内体制を、本部の方針として決定、指示する行程を実践することができた。また、事前勉強会で実施した内容を実践できた半面、想定付与に対するアプローチの方法やさらなる本部機能の強化の必要性が明らかとなった。今回初めて医療調整担当が本部訓練に参加し、事務部門との協同や想定付与に対する対応を行い、種々の課題が明らかとなった。実災害時には本部内の事務部門と医療者が協同して病院対応をする必要があり、今後も、WGや定期的な勉強会等を通して、本部機能の強化を図る必要がある。



(2) 令和4年度 東北大学病院総合防災訓練（多数傷病者対応机上シミュレーション）

企画運営担当：3名、評価：1名

開催日時：2022/2/21 13:00～15:00

訓練会場：①第1部：講義 オーディトリウム ホール
②第2部：机上シミュレーション 星稜会館2階大会議室、小会議室

実施主体：災害対策委員会

参加者：医師、看護師、放射線技師、検査部、医事課、地域医療連携課、災害対応マネジメントセンター、施設企画室、その他見学者

参加人数：59名

訓練までの準備：11/11の訓練に向けて実施した勉強会資料を見直していただいた

訓練当日：①第1部：13:00～13:40
②第2部：13:50～15:00

訓練後の対応：

- ・総合防災訓練WG（各部門振り返り）：3/16

主な評価内容：

- ・抗原検査キットと伝票の使用
- ・黄エリアから黄色陽性・陰性待機エリアへのスタッフ配置、患者の移動、診療対応

- ・コロナ禍におけるベッドコントロール

主な結果と課題：

- ・抗原検査キットの運用については、検体ラベルの準備や検査技師の人員不足、検査結果の搬送要員などの課題が上げられた。検査伝票については特に課題は上がらなかった。
- ・黄エリアから、黄色陽性・陰性待機エリアの人員の選出および患者搬送のタイミングに課題が残った。
- ・訓練会場で災害時の使用を想定しているPHSが使用できず、PHS想定部分の通信がトランシーバーとなったことで、参加者には負荷がかかった。
- ・本シミュレーションには医師が2名のみ参加となり、各エリアの診療の進捗に影響あり、ベッドコントロールの評価が実施できなかった。訓練に必要な医療者（職種、人数）の確保が必要。

成果：コロナ禍における抗原検査キットを活用した多数傷病者対応と、その結果を活用した待機エリアの運用について、机上シミュレーションを通して、これまでに準備してきた対策の有効性および課題が明確となった。5/8から2類から5類への移行に伴い、まもなく専用病床や発熱外来、PCR検査も閉じる方向であるが、感染症拡大期の多数傷病者対応として検討した今回の対応の中から、普遍的なエッセンスを抽出し、今後の有事の際に使用可能な別冊手引きとして整備したい。



2) 各種委員会活動

(1) 災害対策委員会

企画運営担当：4名

開催日：第1回：2022/5/20 WEB会議、第2回：9/21 メール審議、第3回：10/25WEB会議、第4回：2023/3/22 WEB会議

議題等：

第1回：委員会構成員紹介、令和3年度決算および令和4年度予算、令和4年度総合防災訓練、院内火災訓練について

第2回：新型コロナウイルス迅速抗原検査を使用した災害対応に関するメール審議⇒承認

第3回：委員会構成員の変更、令和4年度予算の承認、マニュアル改定項目の確認、メール審議結果について、各WGからの報告、アシスト入力訓練報告、DMAT定例会報告

第4回：令和4年度の総合防災訓練の実施報告および課題、令和5年度の総合防災訓練開催日、各WGからの活動報告、アシスト入力訓練報告、DMAT定例会報告、G7科学技術大臣会合、次年度の予算について

※災害対策委員会には、下記WG・部会が紐づいており、災害対応マネジメントセンターは各WG・部会と連携して活動を行っている。

本部 WG 企画運営担当：3名

開催日：2022/5/10、6/10、7/11、8/10、9/13、12/12、2023/1/12、3/2 ※すべて対面
議題等：昨年の総合防災訓練、2022/3/16日に発生した福島県沖地震における本部活動の振り返りより、本部機能、体制強化に対する検討を行っている。得に休日時間外の災害対策本部を設置するか否かの災害時情報収集チームの体制整備、災害対策本部設置時の初動フロー、災害対策本部内の掲示物の整理、コロナ禍におけるレイアウト、手指設置場所、本部参集者受付名簿の整備、クロノロジーの記載や、電話対応から課題解決までのプロセスなどについて、検討を行った。災害担当事務レベルでの、施設企画課内アクションカードの整備やトランシーバーの整備、災害時のコンタクトリスト作成・更新についても議論し、4半期に1回を想定した本部訓練の企画運営も行った。

第1回本部訓練 企画運営担当：3名

開催日時：2022/6/22 10:15~12:00

テーマ：直下型大地震の発生を想定した災害対策本部における設置、情報収集及び初動対応訓練

目的：大地震発生直後の災害対策本部立ち上げを想定し、院内各部門の被害状況を迅速かつ正確に把握できるよう、本院における被害状況集約チームの設置から災害対策本部設置・災害対策本部会議開催準備を行う。

内容：災害対策本部訓練、災害対策本部設置の流れと ASCIST 使用方法、EMIS の使用方法について講義後、訓練（必要物品を全て第5会議室入口に並べた状態で開始）⇒被害状況収集チーム設置、ASCIST：（本部 PC 情報担当）発災時報告一覧画面印刷、EMIS：（本部 PC 医療調整担当）ログイン、本部長決定に基づく災害対策本部設置、災害対策本部会議の開催準備

参加者：施設企画室、企画係スタッフ：4名+災マネ3名

成果：災害担当部署スタッフが全員交替となったため、病院災害対策本部の重要性や、初動体制、病院の診療機能の評価や災害レベルの決定、EMISでの情報発信など、当院の災害対応の最もコアな部分をお伝えできた。その後の本部設置は本部の設置訓練も含め、事前に自主訓練いただいていたこともあり、迅速に本部設置が完了した。訓練より、現状理解と今後の課題を抽出いただくことができた。



第2回本部訓練 企画運営担当：3名

開催日時：2022/9/22 10:00~12:00

テーマ：直下型大地震の発生を想定した災害対策本部における設置、情報収集及び初動対応訓練

目的：大地震発生直後の災害対策本部立ち上げを想定し、院内各部門の被害状況を迅速かつ正確に把握できるよう、本院における情報収集体制のシミュレーションを行う。

内容：災害対策本部訓練、災害対策本部設置の流れ、クロノロの書き方、災害対策本部設置訓練、クロノロの訓練、質疑応答

参加者：総務課、施設企画室+災マネ3名

成果：災害担当の企画係が主導し、総務課の参加者とともに災害対策本部の設置を行った。また、その後のクロノロの記載訓練では、実際に電話対応を行ってもらい、対応者から、クロノロ担当者に口頭にて伝達してもらうなど、実践的な要素を取り入れ、参加者の理解度も得られた。今後は、本部のコアスキルである実動訓練内容をブラッシュアップし、実践力に結び付く内容としたい。



総合防災訓練 WG 企画運営担当：4名

開催日：WEB会議：2022/6/16、7/21、8/18、9/15、10/13、11/13、12/15、2023/1/19、3/16

議事等：コロナ禍での3年ぶりの実動訓練に向けた、規模縮小の中での訓練の打合せを実施。多数傷病者対応時の、トリアージエリアでのコロナ問診票・迅速抗原検査を用いた多数傷病者対応や、赤・黄

エリアでの有症状・無症状患者に対するゾーニングや動線の検討、黄エリアがオーバーフローした場合の黄色（抗原検査）陽性・陰性患者待機エリアの運用について検討を行った。	
マニュアル改定 WG	企画運営担当：4名
開催日：2022/4/21、5/19（WEB会議） 議事等：2021/10/22 に実施された総合防災訓練の振り返り内容を受け、コロナ禍における災害対応の課題を抽出、検討し、今後の災害対応の構築を実施していた。以降、2022/11/11 の訓練に向け、総合防災訓練 WG へ移行。	
被害情報入力訓練	企画運営担当：2名
開催日：毎月第1金曜日 13:30～のアシスト入力訓練 議題等：毎月企画係が放送実施。集計したものを災害対策委員会に報告し、課題があれば、企画と検討を行う。アシストのプログラムについての改修項目のピックアップ、進捗の確認等を実施。	
外来防災部会	企画運営担当（アドバイザー）：2名
開催日：毎月第1水曜日開催：2022/5/12、7/7、8/4、9/1、10/6、11/2（集合研修）、12/1、2023/1/12、3/2 ※基本 WEB 形式 議題等：外来防災部会におけるアドバイザーの立場で、外来支部の運用や、外来全体の初動対応についての検討を行った。新設部門（帰宅困難者、帰棟困難者、臨時処置室）における対応や、ライフライン途絶時の非常用トイレの設置と運用等について検討を行い、マニュアル作成、資機材の準備を実施。総合防災訓練では、訓練の企画、運営に携わり、訓練後は課題解決に向けた対応について、外来防災部会にて取り組んでいる。	
CBRNE 対応実務調整 WG	企画運営担当：2名
開催日：3/27 G7 に向けた CBRNE 対応実務調整コア WG のキックオフとマニュアルの改訂作業の役割分担を実施。	
(2) 緊急被ばく医療専門委員会	企画運営担当：3名
開催日：2022/9/7 メール審議、2023/1/19・3/24 メール審議 議題等：2022/9/7 に県で合同開催される原子力災害訓練に参加しないことへの審議と、職員への教育用動画の配信、原子力災害拠点病院に支給される原子力関連物品の納品状況や予算執行状況についての報告がなされた。	
実務調整 WG	企画運営担当：2名
開催日：コロナ禍の為、未実施	
原子力災害医療対応マニュアル作成 WG	
開催日：コロナ禍の為、未実施	
(3) BCP（事業継続 BCP：Business Continuity Plan）委員会支援	BCP 事務局員：2名
開催日：毎月第3水曜日 議題等：病棟 BCP の策定サポート、進捗共有、すでに策定した部署の BCM へのサポートと、第4版に向けた各部門への改訂作業依頼、取り纏め等を実施。また、緊急設備点検の訓練実施と振り返りの実施、報告を実施。	
BCP 事務局会議	BCP 事務局員：2名
開催日：毎月1回開催 議題等：病棟 BCP についての策定手順や内容の精査、該当部署との MTG の実施、情報共有、すでに BCP を策定した部門における BCM の進捗状況の把握、改定へのアドバイス等を実施。	
BCP 講演会	

開催日：2022/2/17

実施主体：BCP 委員会

講演会形式：WEB 講演会

テーマ：第 1 部：当院検査部の BCP の取り組み

生理検査部 主任臨床検査技師 三木未佳先生

検査部 副臨床検査技師長 阿部裕子先生

第 2 部：特別講演「国際規格 ISO15189 に基づいた臨床検査の危機管理」

株式会社エスアール 品質保証本部品質保証部

西村とき子先生

内容：当院検査部における国際規格 ISO15189 の取得と、コロナ禍における日々の診療における BCP、BCM の運用状況の紹介。また、ISO15189 についての詳細な内容についての講演をいただいた。

参加人数：86 名

成果：国際規格の ISO15189 がどのようなものであるのか、また、BCP を策定し、実際の臨床の現場で運用して BCM を行っている状況について知ることができ、非常に勉強になった。また、本講演会の内容は、各部門でも応用ができる内容でもあり、今後の病院 BCP を考える上で非常に有益な講演会であった。

第 4 回 東北大学病院BCP講演会
2023年 2月17日 (金) 18:00-19:30
オンラインでの開催となります
第一部 当院の取り組み
生理検査のBCP 三木 未佳 先生
検体検査のBCP 阿部 裕子 先生
第二部 特別講演
「国際規格ISO15189に基づいた
臨床検査の危機管理」
講師：西村 とき子 先生
株式会社エスアール 品質保証本部品質保証部
[所属先プロフィール]
日本医科大学付属第一病院、日本医科大学付属第二病院、
国立国際医療研究センター病院で臨床検査技師として活躍。また、
日本中、全国規模の臨床検査機関 (JAL) での臨床検査技師として活躍し、現在は
株式会社エスアールで品質保証部に在籍し、「ISO15189」に関する講演活動も実施して
いる。当院は国際規格であるISO15189に基いた臨床検査の危機管理についてご講演いただきます。
・お申し込み <https://forms.gle/AZ7W9H2G5G5G5G5G>
・お問い合わせ 総機 111 室 022-711-7007 東北大学病院危機管理課 (奥米)

緊急施設・設備点検訓練

企画運営担当：1 名

開催日：2022/8/5

実施主体：BCP 委員会

目的：大規模地震発生時の病院の施設・設備の点検を迅速に行い、
発災後 1 時間後に開催される第 1 回災害対策本部会議への
報告を行う体制の確立、維持

訓練内容：2022/3/16 に発生した福島県沖地震における初動対応
および、緊急設備点検実施時の課題をもとに、書式の改訂、
平時の体制整備、書式の準備等、災害時にすぐに対応
できる体制整備を行ったうえで、訓練を実施。

参加人数：48 名

成果：巡回ルートの微修正やチェックリストのレイアウトや項目、
チェック欄の記載の変更、更新や点検箇所の
地図への落とし込み、報告書式の改訂などを活用して訓練
したことにより、使用感を評価することができ、課題を抽出
することができた。また、前回問題となった、書類の事前準備
もしっかりとファイル化したことで、部署内に周知徹底され
た。平時からの準備の重要性を再認識した。



3) DMAT 活動

(1) DMAT 定例会兼災害コーディネート部門企画会議 企画運営担当：4 名

開催日：4 月第 2 木曜日開催、5 月以降第 2 火曜日開催へ変更

2022/4/14 資料配信、5/12WEB 会議、6/14WEB 会議、7/12WEB 会議、8/9WEB 会議、
9/13WEB 会議、10/11WEB 会議、12/13WEB 会議

2023/1/10WEB 会議、2/14WEB 会議、3/14WEB 会議

議題等：コロナ禍の状況に応じた、災害発生時の DMAT の対応、例年実施している各種訓練・研修会等の
年間計画に基づく案内（募集・中止等の状況報告）、DMAT の資格維持のための技能維持研修会形態
の変更と事前学習等の連絡、近年の災害に関する新規情報共有や、厚生労働省より発出される通知文
の共有、コロナ対応状況についての情報共有、緊急連絡網のアップデート、DMAT 隊員が参加した訓
練や研修会の報告、DMAT 医療資機材の整備状況等について情報共有を実施した。

(2) 災害関連業務調整会議 毎月第 2・第 4 木曜日 企画運営担当：4 名

開催日および実施内容：

2022/6/23EMIS/DMAT アプリ入力訓練、9/6 第 1 回宮城 DMAT ロジ部会通信訓練、

9/22J-SPEED 入力訓練、10/27 総合防災訓練準備、12/13 第 2 回宮城 DMA ロジ部会通信訓練、

12/22DMAT 倉庫整理、2023/1/26 宮城県災害医療技能研修会準備、2/22DMAT 倉庫整理、
3/14 第3回宮城 DMAT ロジ部会通信訓練

※コロナ禍では、毎月第二木曜日を DMAT 定例会とし、第4木曜日を災害関連業務調整会議とした
※災害関連業務調整会議は、DMAT 隊員が院内外の災害関連業務を行うために病院業務として認めていた
だいた活動時間

(3) 宮城県 DMAT ロジ部会通信訓練 企画運営担当：3名

開催日：第1回：9月6日（火）～8日（木）
第2回：12月13日（火）～15日（木）
第3回：3月14日（火）～16日（木）

訓練内容：訓練①：EMIS 入力訓練（本部業務から本部活動記録・体制管理の入力等）
訓練②：衛星携帯通信訓練
訓練③：MCA 無線通信訓練
訓練④：滅菌機器情報 EMIS 入力訓練

参加者数：第1回：訓練①～③参加医療機関数：16 医療機関、当院参加人数：4名
訓練④：参加医療機関数：12 医療機関、当院参加人数：3名
第2回：訓練①～③参加医療機関数：16 医療機関、当院参加人数：6名
訓練④：参加医療機関数：7 医療機関、当院参加人数：3名
第3回：訓練①～③参加医療機関数：16 医療機関、当院参加人数：5名
訓練④：参加医療機関数：7 医療機関、当院参加人数：3名

成果：宮城県内の災害拠点病院と事前に連絡を取り、グループ内で幹事病院を交替して取り組むことにより、
各災害拠点病院が主体的に訓練を調整し、参加することができた。また、院内での通信訓練の参加依頼
や、滅菌器材を扱う部署と DMAT 隊員などの協力・連携を進めることができ、災害発生時のネットワ
ークの強化を図ることができた。

(4) 広域医療搬送実機訓練 講師参加：1名

開催日：2022/11/21

実施主体：厚生労働省 DMAT 事務局

研修会形式：集合研修

訓練会場：相馬原駐屯地

訓練目的：DMAT 隊員に対し、航空機 CH-47 による患者空輸
を安全・確実に実施するための基礎的事項を修得する

参加人数：受講生：19名、講師：23名

参加形態：講師としての参加

参加者：全国の DMAT 指定医療機関の DMAT 隊員。当院からも
1 チーム（医師 2 名、看護師 2 名、業務調整員 1 名）が参加し
た。

訓練内容：①飛行場等における安全管理②患者の搭載・卸下（機内換装含む。）③機内活動

成果：大規模発生時に実際に使用する、災害服、ヘルメットやゴーグル、ヘッドライト、肘当て膝当て等の個
人防護装備を着用し、本番さながらに仙台から相馬原駐屯地まで車両にて移動し、研修会に臨んだ。自衛隊敷
地内やエプロン、航空機内での安全管理上のルールや、航空機用の患者搬送用担架への ME 機器類の固定、そ
れらを、航空医療搬送で想定されている CH-47 を実際に使用しての搭載・卸下訓練、実際にフライトし、薄
暗く機体音が鳴り響く中で、医療者や自衛隊機のロードマスターとの意思の疎通、診療行為、急変対応等
を行った。政府訓練やブロック訓練、実災害など、実機での DMAT 活動ができる機会は希少であり、非常に有
意義で学びの多い研修会となった。後日、DMAT 定例会にて研修会修了者が報告会を行い、院内 DMAT に情
報共有を行った。



(5) NBC 研修会 講師参加：1名

開催日：2022/12/9～11

実施主体：日本中毒情報センター

研修会形式：集合研修

研修会会場：筑波医療センター、筑波大学病院

参加人数：受講生 46 名（10 施設）＋講師名 32 名

参加形態：講師としての参加

参加者：各災害拠点病院から受講。当院からも DMAT 隊員 1 チーム（医師 2 名、看護師 2 名、業務調整員 1 名）が参加。

内容：NBC 災害に対する、N・B・C の各論や NBC テロ診療手順の講義、模擬患者を用いた診療実習、および院内対応の事務向け演習、日本におけるテロ災害の教訓、総合演習（実働訓練）の実施

成果：当院は災害拠点病院、原子力災害拠点病院でもあり、政令指定都市の中核病院でもある。仙台市では大きな国際会議やイベントが多く開催されており、東日本大震災以降、復興のメッセージも兼ねた国際イベントが増えている。当院では、DMAT 隊員のステップアップの位置付で NBC 研修会を位置付けており、各種国際イベントにおける医療体制は NBC 研修会修了者や DMAT 隊員を中心に実施してきた。今回の修了者には、直近の G7 への院内体制整備に向けた CBRNE 対応のコアメンバーとして人員の強化、体制構築に貢献いただいております。災害拠点病院としての災害対応能力の強化、向上に寄与できた。



4) 実働

(1) 東北大学診療所ドライブスルー型新型コロナウイルス感染症検査外来対応（出張 PCR 検査含む）

企画運営担当：4名

経緯：2020/4/13 宮城県知事より東北大学病院に対し、宮城県補助事業として、PCR 検査を実施するためのドライブスルー方式の帰国者・接触者外来の開設を依頼される。
2020/4/15 新たに「東北大学診療所」（診療所長：石井正）を設置、同診療所において検査外来を実施するフレームとし、同外来開設準備開始。

開始日：2020/4/21 より開始

開催期間：2020/4/21～2022/6/6

診療日：基本開催、平日毎日（第三土曜日含む）

検査予約：完全予約制

検査方法：

- 1.原則乗用車に乗車した状態（バス、バイク、自転車、徒歩等イレギュラーあり）
- 2.出張 PCR 検査：
 - ①高齢者施設・障害者施設等施設訪問し、PCR 検査を実施
 - ②駐車場等の出張先で、ドライブスルーPCR 検査を実施

検査時間：2 分半程度

開催回数：

445 回開催、15870 人 PCR 検査を実施（2022/6 月末日）

スタッフ数：平均 13.0 名/日（のべ 5767 名）

検査人数：平均 35.7 名/日（のべ 15870 名）

災マネスタッフ参加回数：（2022/6 月末日）※2022 年度分/全体
石井正教授：5/194 回、藤田基生助教：3/74 回、
阿部助手：10/231 回、今井技術職員：11/213 回



- 災マネ業務：**①会場の環境整備 ②検査動線管理・人員配置検討
 ③資機材準備 ④感染関連物品の対応
 ⑤行政との調整 ⑥協力スタッフの活動調整
 ⑦事務局体制の構築 ⑧事務局業務フロー整備
 ⑨当日の検査業務現場リーダー・安全管理等
 ⑩日々のML 配信による情報共有

旧消防学校撤収作業：2023/3/3、3/27

成果：宮城県内における新型コロナ感染症対応の地域対応の一環として、感染拡大初期より活動を継続し、県内の医療機関の負担軽減、医療逼迫の軽減に貢献した。



(2) 高齢者施設支援チーム活動 企画運営・参加：1名

経緯：2021年度に宮城県内の高齢者施設での感染拡大に伴い、随所でクラスターが発生。厚労省チームが宮城県医療調整本部を支援する形で入り、それを宮城県内の医療従事者で引き継ぐ形で支援チームを設置した。支援チーム構成員は、医療調整本部員、感染制御支援チーム(県・市)、COVID-19 JMAT、仙台市DMAT、仙台市職員、宮城県医師会職員、その他支援団体等。手上げ方式で118名が登録。2022年度も行政からの要請に応じて対応。

業務内容：業務継続支援や診療支援、感染制御指導等

活動実施日・期間と支援形態、支援施設数：

活動期間	活動日	支援形態	支援施設数
2022/7/28~8/10	13日	看護師	3施設

具体的な支援活動内容：

- ①施設に入り、施設職員・入所者の感染状況、ゾーニング、感染対策、業務状況、人員不足の有無、物品や人的資源の必要性について調査、評価を実施し、行政に報告。
- ②欠員看護師の業務対応と、入所者へのケア(清拭、食事介助、環境整備等)、感染対策、ゾーニング、往診時の診療介助を実施。
- ③感染制御チームとの連携(再ゾーニング含む)、情報交換を行い、機密性の高い施設の換気状況が改善するよう、換気動線を含む感染対策の強化を図る

災マネスタッフ参加回数：阿部助手：11回

災マネ業務：参加者調整、施設の情報収集、支援スタッフ間の情報共有、支援業務に必要な物品の準備・管理、報告書の作成・送付、感染制御チームとの情報交換、高齢者施設支援担当者との情報共有、看護師としての服薬管理、往診対応、食事介助、排泄介助等

成果：コロナ陽性により看護師や介護士が欠勤となり、施設内職員が不足し業務が停滞する状況下の施設に介入し、薬剤管理や往診対応等、欠勤した看護師の業務を代替することで、施設内の応急対応を行うことができた。また、支援チームとして、施設内の環境、感染対策の状況を確認し、仙台市の感染制御チームと情報共有、連携しながら、施設内のゾーニング、動線管理、換気、PPEの着脱指導や、資機材管理の方法等の指導にあたり、施設における対応マニュアルを作成し提示した。日々の対応を逐次、保健所や感染制御チームに報告することで、逼迫する保健所業務の軽減にもつながり、高齢者施設の職員の負担の軽減、精神面でのサポートを行うことにより、施設職員の負担や不安が軽減され、クラスター発生施設の混乱や早期収束に貢献できた。



5) 教育活動

(1) 2年次医学研究PBL 企画運営：3名

開催日：1回目：2022/9/13、2回目：9/20、3回目：9/27

開催時間：8:50~12:10

テーマ：複合災害に備える～病院・行政の災害対策の在り方～

PBL概要：学生が興味あるテーマを選択。各講師がテーマに沿った事例を提示し、基本情報をミニレクチャー

で説明。学生は基本的情報を元に、事例から興味ある疑問点・問題点をグループで討論して抽出。グループで共同して学習し、問題の解決に向けた仮説の設定、具体的な方策などをまとめて発表する。

実施内容：テーマに沿って、ここ30年くらいで発生した複数の災害について説明し、そこからいくつかの災害の詳細や実際の被害状況、国の対策等について講義を実施した。その後、宮城県にて起こりうる災害を複数テーマとして取り上げた。学生は3班に分かれており、それぞれの班で興味のあるテーマを決定し、講師3名が各班に1名ずつ付いて、学生の学びをサポートした。

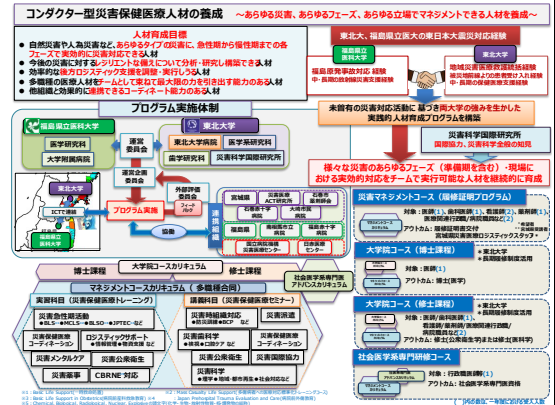
成果：医学部の学生に対し、宮城県内で起こりうる災害や現在の医療体制、行政対応について考える機会を提供し、数ある切り口の中から、学生が自らの興味をテーマに選定、情報収集、チーム内でのディスカッションを通して、理解を深めることで、次世代の災害医療を担う医療人の育成に貢献できた。

(2) コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム 企画運営：4名

経緯：「医療現場等で課題となっている事柄に貢献できる人材の養成」をテーマに文科省で公募された、課題解決型高度医療人材養成プログラム(平成30年度)にて、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」が選定された。

概要：

- 1.コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラムでは、災害マネジメントコース(履修証明プログラム)、大学院コース(博士課程)、大学院コース(修士課程)、社会医学系専門研修コースがある。
- 2.災害マネジメントコースでは、以下の14必須科目がある。
 - 1.CBRNE対応実習、2.災害保健医療コーディネーションセミナー、3.災害保健医療コーディネーション実習、4.災害急性期活動実習、5.災害公衆衛生セミナー、6.災害公衆衛生実習、7.災害時組織対応セミナー、8.災害メンタルケア実習、9.災害派遣セミナー、10.災害科学概論、11.災害薬事実習、12.災害国際協力セミナー、13.災害歯科学、14.ロジスティックサポート実習



今年度の実績：

今年度が最終年度となる。全23研修会を実施し、災害GP受講生のべ250名、オープン参加者342名が受講した。2023年3月末までに、新規に11名/計30名が修了予定。

災害業務内容：

科目1、4、7、14については企画運営から研修実施の全行程に携わり、それ以外の研修会についても、進捗管理や当日の研修会サポート等を行っている。

成果：もともと実習メインのプログラムであったが、コロナ禍となり実研修の開催が困難な状況となった。

令和2年度は研修会の形式を模索してWEB+集合研修のハイブリッド形式の実施を試み、令和3年度はそれらの継続に加え、徐々に実研修会の開催にシフトするなど、コロナ禍の社会情勢を考慮した開催形式を工夫して、規定の研修会を開催できた。また、R2年度に引き続き、受講期間を延長していたが、修了生を出すことができた。

また、それぞれの必修科目の内容が、毎回、内容をアップデートした最新の災害医療対応を反映したものとなっていることや、受講者も医療従事者だけではなく、医療関係の学生や、病院の施設設備に関わる職業の方もおられ、幅広い職種、年齢層に向けた災害医療に関する研修会を開催することにより、災害医療人材の育成に貢献できていると考える。

ロジスティックサポート実習(災害医療救護通信専門研) ※一例 企画運営：3名

開催日：2023/3/25~26
開催時間：1日目：12:50~18:30 2日目：8:50~12:30
研修会会場：東北大学災害科学国際研究所
目的：災害時における医療救護に関わる医療スタッフが使用する可能性のある通信機器について知識を習得し、実際に通信機器に触れて通信を体験し、実災害に使用可能な基礎を構築する



概要：もともと総務省が実施していた「災害医療救護通信エンジニアースパート研修」を軸に、より医療者にわかりやすく、特化した内容とし、実動訓練も盛り込んだ。通信機器については、各キャリアの業者が実物を説明・実習した。

実施内容：災害時医療救護通信の概念、衛星通信機材（VSAT含む）等の取り扱い実習、情報伝達訓練

参加人数：講師 23 名（本院参加人数：6 名）

受講生 20 名（本院参加人数：1 名）

成果：災害時における通信機器は、災害医療を行う上で、本部機能や現場対応を上で必要不可欠な、もっとも重要なものである。今回の研修会では、講義内容については医療従事者に必要なエッセンスを抽出し、実際の通信機器実習ではこれまでの通信機器よりも多い機種を扱い、実際に触っていただいた。また、総合通信訓練では、通信機器を活用した本部での情報のやり取りを実践いただく訓練を行い、災害時の情報通信ツールの使用方法、情報を取り扱うカウンターパート、情報の種類、記録等、通信・情報に係る総合的な知識、技術を習得いただくことができた。



6) 災害対応マネジメントセンター活動

災害対応マネジメントセンター・災害コーディネート部門企画会議 ※企画運営担当：4 名

開催日時：2 週間毎に開催 2022 年度実績：21 回

実施形態：現地開催＋WEB 会議形式

開催内容：

- ・院内の災害対応に関する各種委員会、各種 WG における進捗、課題の共有を行い、ディスカッションを通して課題解決に向けて対応した。
- ・院外の災害対応に関する各種訓練・研修会における企画、準備状況、進捗および運営、実施後の振り返りより課題を抽出し、宮城県内の災害対応の底上げを継続して実施している。
- ・災害 GP における各種研修会の準備状況、進捗を共有し、円滑な研修会の開催に向けた調整を行った。